

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500081		
法人名	特定非営利活動法人 熊毛清風会		
事業所名	グループホーム おかでら荘		
所在地	山口県周南市大字樋口262番地1		
自己評価作成日	平成29年 5月 31日	評価結果市町受理日	平成29年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、利用者様が安心して安全に暮らせるよう計画に基づいたサービスを提供しています。又、地域密着型施設として地域との交流、参加に力を入れています。環境は小学校に隣接、近所に幼稚園、少し歩けば烏帽子ヶ岳が一望出来る最高の環境の元、サービスを提供することが出来ます。窓を開ければ元気な小学校生徒の声、鳥のさえずりが聞こえて来ます。幼稚園児、小学校生徒との交流が多々あります。当法人では、利用して頂くにあたり第二の我が家として職員、他利用者様と共に笑顔で過ごせるような環境づくりに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地区の敬老会に参加されたり、地域の幼稚園や小学校の運動会で競技に参加されたり、見学をしておられます。事業所の毎週金曜日の「カレーの日」には地域協力が来訪されたり、事業所主催の夏祭りやそうめん流しには地域の多くの人が参加されて交流しておられます。フラダンスや日本舞踊、和太鼓、音楽療法、紙芝居などのボランティアの来訪や、小学生の体験学習高校生の介護実習を受け入れておられます。地域の人からの差し入れがある他、散歩や買い物時には地域の人と日常的に交流されています。ぬり絵、かるた、パズル、ゲーム、風船バレー、バットゴルフ、口腔体操、棒体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑の世話、野菜の収穫、盆栽の手入れ、花の水やり、新聞紙でのゴミ箱づくり、自室のゴミだし、箒での掃き掃除など、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をして利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。年1回は職員の自己申請で外部研修に参加され、介護の技術や知識が学べるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に対する取り組みを職員全員で話し合い玄関内に掲示して意識統一を行っている。又、毎月そのうちの1項目を施設内研修にて月目標とし、個人日誌に記載し、個々で理念の実践、反省につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、内部研修で決めた月目標に沿って個人日誌に記録し、理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の機会も増え地域の方とのふれあいも多くなった。幼稚園児、小学生生徒との交流も今まで以上に増して来ている。(29年度は小学生全学年来荘。)	理事長が自治会総会に出席し事業所の活動について説明している。地区の敬老会や地域の盆踊りに参加している他、幼稚園や小学校の運動会で、玉入れ競技に参加したり、見学をして交流している。小学生の体験学習や高校生の介護実習の受け入れをしてふれあっている。事業所主催の夏祭りや事業所で毎週金曜日に実施している「カレーの日」に来訪している人、そうめん流しには子どもから大人まで多くの来訪者があり交流している。ボランティア(フラダンス、日本舞踊、和太鼓、音楽療法、傾聴等)の来訪がある他、介護相談員が来訪して、利用者の話を聴いたり、昔話や紙芝居などのレクリエーションをしている。散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、金柑等の差し入れがある他、月1回の買い物の日にはスーパーマーケットの店員や買い物客との交流があるなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ、幼稚園児、小学生生徒との交流にて認知症の方の理解や支援の方法を知って頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に外部評価の意義を説明し、自己評価は全職員対象に実施した。	内部研修で、施設長が評価の意義について説明している。前回の自己評価及び外部評価結果と、今回自己評価をするための用紙を全職員に配布して記入してもらい、施設長がまとめ、各ユニットに配布し、各主任を中心に話し合って作成している。職員は自己評価を実施することで、意識付けと業務の反省につなげている。利用者の高齢化・重度化に伴う思いの把握の工夫など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(第2金曜日)運営推進会議にて利用者の状況、ヒヤリハット事故、行事の実施報告、評価の項目に沿った内容を話し合っている。朝礼・施設内研修にてそれらを盛込んだ内容としている。	民生委員1名と、事業所の主任2名を新たにメンバーに加えて、会議は2ヶ月に1回開催している。事業所の活動や利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、災害対策の状況、外部評価などについて報告し、意見交換している。議事録は事業所内に掲示している。地域メンバーからふれあいフェスタなど地域行事の紹介があり、参加しているなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市の職員に確認を取り運営している。特に運営推進会議はよりよい場とし協力関係構築に努めている。	市担当者とは運営推進会議時の他、直接出向いたり電話やメールで連絡を取り、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時等で情報交換をするなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	無断外出の可能性がある人に対する支援の見直し、あり方を施設内研修にて未然に話し合って防止に努めている。常日頃の朝礼にて報告・相談・実施・結果まで繋げている。マニュアルの徹底と活用を行っている。身体拘束0委員 担当職員配置。	「身体拘束の手引き」があり、職員は内部研修で学び、正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。利用者が外に出たい時は、職員が寄り添って閉塞感を持たないケアに努めている。スピーチロックについて気になる場合は施設長が指導している。事業所独自に虐待リスク評価アンケートを実施し、介護計画にも反映させている。身体拘束0委員を決め検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの徹底と活用が出来ている。今現在の支援が第三者の視点として虐待に繋がる、見られてもおかしくないことをいつでも意見箱に入箱できる仕組みをとっている。改善の必要性がある場合は計画作成者に計画に盛り込む仕組みをとっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアプランを元に、個々の支援統一と自立度等を職員さんが理解したうえでの支援に取り組んで頂いる。成年後見人制度利用者(平成28年1月12日亡)現在利用者無し。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、入居契約書を元に十分な説明と納得を得ている。利用者様、ご家族に不利益がこうじる事の無いよう十分に行えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に基本利用料現金払いとし、ご家族に入居者さんの報告や相談・苦情を言える機会を多く持っている。意見箱の設置。運営推進会議を利用し外部の方からの案も反映させている。運営推進会議録玄関掲示。平成29年4月より運営推進会議、主任参加。	契約時に、苦情相談の受付体制や担当者、苦情解決責任者、処理手順、第三者委員、外部機関等について利用者及び家族に説明している。事業所内に意見箱を設置している。家族の面会時や利用料支払いで来訪時、行事参加時、運営推進会議参加時、電話などで、家族の意見や要望等を聞いている。事業所だよりの他、介護計画の作成や見直しを目的としたアセスメント様式を家族に郵送して、家族から意見等が出しやすいように工夫している。利用者の意見や要望は、地域協力員や介護相談員が聞いて、運営推進会議時に意見として提案している。家族からのマットの購入や交換など利用者のケアに関する要望や意見には、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出していない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、毎月10日の施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を設けて皆さんで考え反映している。アンケート形式での意見箱の活用。主任制度の充実。(キャリアアップ基準書完備)	施設長は、毎日の朝礼や毎月の職員会議時に、職員の意見や提案等を聞く機会を設けている他、日常業務の中での聞き取りやアンケート形式での意見箱の活用、各ユニットの主任制度を充実させ現場での意見や提案、気づき等を主任を通して聞く機会を設けている。職員の提案により車いすや円座などケアに必要な物品を購入したり、職員の状況に合わせた勤務体制など、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ管理者も現場に出て状況把握に努めている。地域貢献、ボランティア活動、子育て等推進している為、希望休を優先している。就業規則内、キャリアアップ基準書、賃金表完備。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体での現状・職員の能力に見合った内部研修内容になっている。1人1人職員の能力・力量に見合った外部研修に参加している。平成29年4月より年度内1回、全職員自己申請外部研修参加実施)	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。研修参加後は復命として研修記録を作成し内部研修の場で報告し、資料は閲覧できるようにして全職員で共有している。年に1度は職員の自己申請で外部研修に参加することを義務付けし、褥瘡の理解、排泄セミナー、認知症介護実践者研修、老人福祉施設中堅職員研修など多くの研修に参加している。内部研修は、年間計画を作成して月1回施設長が講師を務めて実施している。新人研修は、主任が指導者となり、介護の知識や技術が学べるよう取り組んでいる。資格取得も支援している。職員に7つの役割(行事起案、誕生日会、展示物、施設内研修書記、主任補佐、事業所だより作成、クラブ活動)を分担して、職員の質の確保や向上に向けた育成をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて交流する機会を作っている。理事長が同業者の運営推進委員となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでに管理者(介護支援専門員)と主任が利用者さんと面談し要望・不安を事前に取り除いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族による事前見学にて不安や要望等も聞き契約の段階でしっかりと信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事の相談、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネージャーと連携をとり速やかに対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	機能訓練を兼ね、出来る事は行って頂く支援を行っている。家事、洗濯物干し・たたみ、料理の下ごしらえ等、協働して出来る機会を設けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用料支払いは基本現金払いのため、ご家族が来荘されます。入居者様と会話し、状態報告、ご家族からの要望、ご家族へのお願い等が密に行えている。当法人独自のアセスメント使用。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽な面会、外出支援や、ボランティアの方のイベントなどが多く、関係作りに努めている。	家族の面会や兄弟、親戚の人、近所の人、教え子等の来訪がある他、年賀状や手紙の受け取り、携帯電話でのやり取り、電話の取次ぎを支援している。馴染みのスーパーマーケットでの買い物、自宅近くまでのドライブ、地区敬老会への出席、家族の協力を得ての外出や外出、自宅への一時帰宅、外泊、法事への出席、墓参りなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中状態変化のないかぎり、フロアにて過ごしていただけるよう声かけや様々な取り組み(テレビ鑑賞・パズル・かるた・散歩・卓球・等)で雰囲気づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去届にて、明記している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の朝礼にて入居者さんの意向、希望、思い等があれば皆で検討し把握に努めている。日常の会話、表情、動き等から本人の想いをくみとり、アセスメントを活用し介護計画に盛り組んでいる。	入居時に本人や家族から生活歴を聞き取り、フェイスシートを活用してアセスメントし、アセスメント要約票に記載して、利用者一人ひとりの思いを把握している。日常のかかわりの中で把握した思いや意向は個人記録に記入し、全職員が共有している。把握が困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合っ、本人本位に検討して、利用者の思いに添った支援に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんに少しでも早く新しい環境に慣れていただく為と事例が困難になって対応する事のないように入居の際、ご家族から得た情報をフェイスシート、サマリー等で職員間で情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持が保たれているかどうか等、毎朝、バイタルチェックを行い記録している。状態変化時は主治医と相談し、申し送り帳を通じ、朝礼時や施設内研修時にて把握・検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族の要望・希望と現状に必要とされる介護計画を、職員アンケートや日々の職員同士の会話・記録よりアセスメントに記入し、介護計画を作成している。計画変更前に担当職員さんがその総合経過をまとめ、計画者が精査し計画作成を行い家族同意の下行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、随時ケアカンファレンスを行い、本人や家族の思い医師の意見、職員アンケートの意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。日々モニタリングを実施し、3ヶ月毎に見なおしている他、利用者の状態に変化があるときはその都度見直しをし、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人が個人記録、申し送り帳に細かく記入し情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望・様態に応じ、職員の意見を出し合い、その日の朝礼時に決定・変更・実行したり急なドライブで気分転換を図ったり、小規模だからこそ行える「柔軟な姿勢」を活かしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法、相談員、傾聴ボランティア、日本舞踊、小学生、幼稚園児、美容師(2ヶ月に1回) マッサージ等、地域の人と触れ合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の説明と共に日々の健康相談、定期受診、緊急時の往診、入院時の紹介状等すみやかに行える様、常に連携している。インフルエンザ予防接種時は全員が同日に行えるよう往診して頂いている。	利用者それぞれの医療機関や協力医療御機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の受診時には事業所が同行し状況を伝え、それ以外の医療機関の受診時には家族に口頭で状況を伝え、家族の協力を得て支援している。受診結果は業務日誌に記録し職員間で共有している他、必要に応じて家族に報告している。歯科は症状に応じて受診支援している。他科受診時には協力医療機関の紹介状を持っていく他、夜間や緊急時にも適切な医療を受けられるようかかりつけ医と事業所の関係を築いているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼時、身体変化時等、常に看護師の指示を受けるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院のケースワーカーさん看護師さんと連絡を密に行い、面会しては状態、状況把握に努めている。遠方の家族の場合、家族の役割も行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望があれば看取りまで行っており、家族との連絡体制や医療連携等、検討や準備を行い安らかに旅立ちご家族が悔いを残されないように出来るだけ付き添って頂いている。終末期の方においては個別の緊急時の対応・方法・マニュアルを作成している。	契約時に、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、関係者で話し合い、入院や移設、看取り等、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	普通救命講習受講に毎年参加している。申し送り帳を活用し未然に事故防止に努めている。ヒヤリハット、アセスメントの活用にてケアマネジメントの充実を行っている。	事故等が発生した時には「事故・けが・ヒヤリハット・苦情・要望報告書」に発生の内容や対応について、その場にいた職員が記録し、申し送り帳で全職員に周知し、朝礼で報告し共有している。各ユニットの主任を中心に今後の再発防止策について検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、事故防止をテーマにリスク軽減・回避・危機管理意識向上について学んでいる。職員は、毎年交代で消防署主催の普通救命講習に参加している他、誤嚥時の初期対応等の訓練を看護師が講師となって実施しているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成28年3月6日、周南消防署員・光消防署員10名、消防団員115名と合同避難訓練を実施することが出来、年2回避難訓練実施。地域との協力体制構築の為、日頃から顔なじみなるようイベント等に参加させてもらっている。	事業所独自で年2回、火災発生時の通報、避難、消火訓練と、土砂災害避難訓練を実施している。土砂災害避難訓練では、避難経路と避難場所の確認、所要時間測定をしている。日頃から地域のイベントに参加し地域の一員として顔なじみになるよう努めているが、災害時についての地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんは人生の先輩として教わることも多くあり、声掛けに対しては常に気を配り、生活歴を念頭に置き会話をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として誇りや尊厳を傷つけないよう、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や取り扱いにも注意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話、レクリエーション等を通じ自己決定や希望等を引き出して聞いている。自己の感情が出やすいように、信頼し合える人間関係作りを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心のゆとりが他の人のペースに合わせる事が出来たり、事故防止・チームワーク形成に繋がる事を常に念頭においている。その人らしい日々の過ごし方を大切に、私情をはさまない支援を提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんに対する身だしなみへの関心、興味が無くならないよう気をつけ褒める声かけを行い、衛生、健康、身だしなみ、季節に応じた洋服、着替えの少ない方は家族に連絡している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに花を飾り、イベントや毎週金曜日のカレー等手伝って頂いている。食事の準備・片付け、食器洗い、拭き、下膳できる人は自分で行って頂くよう毎日の日課としている。外出支援での外食、月1回の昼食購入を目的とした買い物を行っている。	昼食と夕食の副食は配食を利用し、主食と汁物、朝食は事業所内で調理している。献立は、郷土料理や季節食を取り入れ、事業所の畑で収穫した野菜で一品を加えている。利用者は、野菜の皮むきや刻むなどの下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。毎週金曜日を「カレーの日」とし、地域の人も来訪して、一緒に食事をしている。利用者と職員は、テーブルを囲み、会話しながら一緒に食事をしている。月に1回は買い物に出かけ、利用者好みの昼食やおやつを購入している。おはぎやホットケーキ、プリンアラモードなどのおやつづくり、誕生日のケーキづくり、節句、夏にはそうめん流し、冬には鍋会などの季節行事食、おかでら喫茶でのお茶会、喫茶店の利用、道の駅での外食、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた量、形状を提供している。状態に合わせて飲み込みの悪い方には、刻み食、水分にはトロミをつけ、出来るだけ自力で摂取して頂き残量を介助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の30分後、利用者さんに声をかけ働きかけをし、出来ない所はしっかりと介助し清潔を保持している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記入し排泄パターンを知り、声かけ・誘導・個々にあったパット使用等を話し合い柔軟に対応している。	排泄表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	動かない生活ではなく、一人一人にあった、お手伝いや体操・レクリエーション・個々の機能訓練にて予防とし野菜を多く献立に工夫して頂き、散歩ができる方は庭を積極的に歩いている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事などの都合もあるが、基本は午前中に入浴して頂いている。強要はせず他の方と変更・入浴回数増するなど柔軟に行っている。希望に応じ足浴も行っている。	入浴は、日曜日を除いての毎日、10時30分から11時30分までの間可能で、一人ひとりの希望や体調に合わせて16時までは午後からも入浴できるように支援している。状態に応じてリフト浴やシャワー浴、足浴、清拭で対応している。入浴したくない人には、時間をずらしたり、職員の交代や声かけを工夫して支援している。入浴剤の使用や、音楽を流す、歌を歌うなどして入浴を楽しめるよう支援をしている。公民館ふれあいセンターの入浴場を利用して気分転換への支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂くために日中に適度な機能訓練を行って頂いている。昼夜逆転にならない範囲で休息をとっていただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容が把握できるようファイルに保管し、誤薬を防いでいる。服薬の中止・追加・変更があった場合は職員同士の情報共有の徹底をしている。薬情報ファイルを活用している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の外出支援の実施、趣味の畑仕事・料理の下ごしらえ、洗濯干し、洗濯たたみ等の役割の提供、ボランティア受け入れを行っている。外出支援では、普段からの要望を記録し、個別にも叶えている。嗜好品は月1回の買物支援にでも実施。	ぬり絵、ちぎり絵、はり絵、新聞紙のゴミ箱作り、習字、テレビ(相撲、時代劇水戸黄門)やDVD視聴、ビデオで孫を撮影して観賞する、歌を歌う、新聞や雑誌を読む、計算ドリル、漢字ドリル、かるた、パズル、ゲーム、ボール遊び、風船バレー、パットゴルフ、卓球、口腔体操、棒体操、散歩、買い物、花の水やり、生花クラブ活動、盆栽の手入れ、畑の世話、野菜の収穫、野菜の皮むきや刻むなどの下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、お盆拭き、おやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、自室のゴミ出し、ほうきでの掃き掃除、犬の世話(ゲージの掃除、水やり)、お茶会、誕生日会、事業所主催の夏祭り、地域の盆踊りへの参加、地区の敬老会参加、事業所内で行うミニ敬老会、幼稚園や小学校の運動会での玉入れ競技参加と観覧、小学生の体験学習でのふれあい、フラダンスや日本舞踊、和太鼓の鑑賞、音楽療法、介護相談員による昔話と紙芝居、おしゃべりなど楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある生活を送れるよう支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんの希望を把握し職員と一緒に庭の散歩やグラウンドまでの散歩など取り組んでいる。各入居者様のレベルに添った外出支援・散歩等、柔軟に取り組めるよう努めている。買い物(月1回)や季節に咲いた花を見に行く等。	散歩、買い物、外食、季節の花見(梅、桜、あじさい、コスモス、紅葉)、ドライブ、初詣、動物園、幼稚園や小学校の運動会、地域の盆踊り、大工をしていた頃に立てた寺を見に行く、家族の協力を得て自宅への一時帰宅、買い物、外食、法事への出席、墓参りなど外出を支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、所持金は無し。買い物(月1回)に出られた時は、利用者様の欲しい物が買えるよう立て替え支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはご家族へ年賀状を書いて頂き、中には携帯電話を自分で持たれている方もいらっしゃる。不穩時、可能な方は家族に連絡し、会話して頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には季節の花を飾り季節感を採り入れ、トイレ内に消臭剤、暑くなれば網戸にし風通しをよく外観し季節感を味わってもらっている。	食堂兼居間は広々とし、自然の光が差し込み、窓や扉は開け放して風通しがよい。壁面には行事時の写真が貼っており、食卓の上やコーナーにあるテーブルなどの上には季節の花が飾ってある他、盆栽が庭や室内に置いてあり、庭木や花、畑の様子に季節を感じることができる。近隣の小学校からは子どもたちの声が日常的に聞こえてくる。大型ソファや大型テレビが設置しており、利用者がユックリ過ごせる。各ユニットは広い廊下でつながっており、利用者は廊下を通ってお互いに自由に行き来できる他、朝のお茶の時間や、ユニット合同でのイベントに使用している。電子ピアノや卓球台が置いてあり使用できる。テレビ画面でDVD視聴の他、インターネット環境が整備されてパソコンで様々な情報収集ができ、利用者は楽しむことができる。庭では犬を飼っている。温度や湿度、換気に配慮している。利用者同士のおしゃべりが聞こえ、各ユニットの台所では調理の音や匂いがして生活感があり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(スペース)が広くゆっくりと寛げる空間作りをしている。又、共同作業が出来るように心がけている。ソファの活用、テーブルの分割や席の工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や物、寝具などの思い出のある物。あるいは使い慣れた物を持参して頂いている。出来る方については、一緒に掃除を行っている。	整理ダンス、衣装かけ、衣装ケース、テーブル、文机、椅子、籐の椅子、鏡台、壁掛け時計、置時計、電気スタンド、本、テレビ、ビデオ、扇風機、造花、ゴミ箱、趣味の道具(書道用の筆等)など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やはがき、誕生日カード、色紙、書道作品、カレンダーなどを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、共用空間の位置がわかりやすいように各居室に表札を取り付けている。混合の可能性のあるもの及び、衣装ケースには種類別の名前を記入したり貼っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム おかでら荘

作成日：平成 29 年 10 月 23 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○事故防止の取り組みや事故防止発生時の備え→全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続を期待します。	①事故防止 ②事故発生時の備え ③応急手当や初期対応	①業務日誌・引継ぎ帳の活用。 ・出勤後、業務日誌と引継帳を自分の目で確認し業務に携わる。 ①起案の作成力。 ②マニュアルの必要性の理解と把握。 ・何故マニュアルが必要なのかを理解する。 ・マニュアル内容を把握する。 ③普通救命講習への参加。 ・引き継ぎ、選抜職員の普通救命講習への参加を行う。	2年
2	36	○災害対策・・・地域との協力体制の構築→地域との協力体制の構築を期待します。	①地域の方に当施設内を知って頂く ②認知症の方への関心を深める	①②地域ボランティア来荘時の対応力向上。 ②引き続き毎月1回、近隣のスーパーに昼食をメインに買物実施し地域の方達と顔なじみになる。	2年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。